

# 経緯説明

(RCOSトラック6)

研究データ管理支援者に求められる  
スキル標準

高久雅生

筑波大学図書館情報メディア系

masao@slis.tsukuba.ac.jp

2021年7月8日（木）

# 背景

- (お題目としての) 研究データ管理の必要性
  - ✓ オープンサイエンスに関わる政策的な動向
- (実践としての) 研究データ管理の切迫性
  - ✓ 公的研究助成などにおけるRDM義務化
  - ✓ 研究データ管理のための様々なRDMサービス
- 組織体制の確立
  - ✓ プロジェクト・部局・機関それぞれのレベルで研究データ管理が必要となる
  - ✓ 当然、研究機関の規模や分野によっても様々な違いがあり、それぞれに応じた支援が必要
- 必要な支援人材とそのスキル/職能の検討

# 人材育成におけるスキル標準

隣接領域でも... : URA, データサイエンティスト, 知財人材など

成果報告書 (スキル標準の作成) x +

mext.go.jp/a\_menu/jinzai/ura/detail/1349663.htm

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

サイトマップ English 文字サイズ

会見・報道・お知らせ | 政策・審議会 | 白書・統計・出版

トップ > 科学技術・学術 > 科学技術関係人材の育成・確保 > リサーチ・アドミニストレーター(URA)システムの整備(スキル標準の作成) > 成果報告書(スキル標準の作成)

● リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保

成果報告書(スキル標準の作成)

- 表紙、目次 (PDF:770KB)
- 1 本事業の概要 (PDF:758KB)
- 2-1 海外調査 (PDF:571KB)
- 2-2 海外調査 (PDF:555KB)
- 3 スキル標準作成の経緯 (PDF:505KB)
- 4 URAスキル標準 (PDF:1078KB)
- 5-1 スキルカード (PDF:315KB)
- 5-2 スキルカード (PDF:313KB)
- 5-3 スキルカード (PDF:262KB)
- 5-4 スキルカード (PDF:281KB)

データサイエンティストのための  
スキルチェックリスト/  
タスクリスト概説  
Skill Checklist & Task list Overview

一般社団法人  
データサイエンティスト協会  
スキル定義委員会  
独立行政法人  
情報処理推進機構  
ITSS+(データサイエンス)

知財人材スキル標準 (version 2.0) x +

jpo.go.jp/support/general/chizai\_skill\_ver\_2\_0.html

文字の大きさ 小 中 大 English | 投書箱(ご意見・ご要望)

特許庁 JAPAN PATENT OFFICE

ENHANCED BY Google

ホーム お知らせ 制度・手続 支援情報・活用事例

ホーム > 支援情報・活用事例 > 一般支援情報 > 知財人材スキル標準 (version 2.0)

## 知財人材スキル標準 (version 2.0)

### 知財人材スキル標準とは

知財人材スキル標準(以下、「知財スキル標準」)は、企業における知的財産の創造・保護・活用に関する実務能力を明確化・体系化した指標であり、知財人材育成に有用な「ものさし」を提供しようとする。知的財産推進計画2006において、知財人材のスキルの明確化や知財人材に求められるスキルの基準等の策定が産業界によって策定されました。知財スキル標準は、戦略スキル及び実行スキルから構成されており、企業によって定められています。

### 改訂 (version 2.0作成) の経緯

知財スキル標準は策定から約10年が経過し、近年の経営環境の変化のなか、現在のニーズや知財人材のあり方も存在する可能性があります。そこで、特許庁では平成28年度に「企業の知財戦略の変化や産業構造のあり方に関する調査研究 (PDF: 3,958KB)」を行い、今般改訂 (version 2.0作成) を行いました。

# スキル標準の目的

- さまざまな方向への活用
  - ✓RDM教材、学習・研修への活用
  - ✓組織体制の検討
  - ✓RDM実践をうながす
- 対象：支援者全般（幅広くとらえる）
  - ✓単一の職員、単一の職種だけでは完結できない
- たたき台としてのスキル標準ver.0.0
  - ✓実践そのものが十分でない

# スキル標準検討のタイムライン

- 2017年度：NIIオンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」
  - ✓ 2018年度：教材「研究データ管理サービスの設計と実践」
- 2018年度末
  - ✓ 学術情報ネットワーク運営・連携本部 オープンサイエンス研究データ基盤作業部会のもとに、「トレーニングSWG」設置
- 2019年度
  - ✓ JPCOAR研究データ管理教材へのコメント等
  - ✓ 古川委員、尾城委員からのスキル標準案をもとに議論を開始
- 2020年度
  - ✓ 國本委員、古川委員からのインプットによる全体の整理、再構成
  - ✓ 業務・研究サイクル・職種の3観点を切り口に約90項目

→ 近日中に公開予定！(Ver.0.0)

# トレーニングサブワーキンググループ

学術情報ネットワーク運営・連携本部  
オープンサイエンス研究データ基盤作業部会

## 委員

- ✓ 高久雅生（筑波大学図書館情報メディア系）
  - ✓ 國本千裕（千葉大学アカデミック・リンク・センター）
  - ✓ 田中幸恵（名古屋大学附属図書館）2020年度～
    - 村西明日香（名古屋大学附属図書館）～2019年度まで
  - ✓ 天野絵里子（京都大学学術研究支援室）
  - ✓ 山地一禎（国立情報学研究所コンテンツ科学研究系 / オープンサイエンス基盤研究センター）
  - ✓ 古川雅子（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター）
  - ✓ 尾城孝一（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター）
- 2021年度からは、NII研究データ基盤運営委員会RDM人材育成作業部会へ再編

# 本セッション全体の紹介

- 経緯説明（高久雅生）
- スキルの内容（國本千裕）
- 図書館員に求められること（田中幸恵）
- URAに求められること（天野絵里子）
- 活用に向けた展望（古川雅子）
- Q&A
- 随時 Slido にて質問をいただければ、セッション内で質疑したいと思います：  
✓ # 819003